

2018 イルミネーション

テーマ 『冬の約束』

alaクルーズ“2018イルミネーションプロジェクト”今回のテーマは『冬の約束』です。内容は“鶴の恩返し”、9月下旬に企画会議でテーマを決定しました。10月に入り図面を引いて、それに合わせて四苦八苦、連日

制作に当たり、多いときで5人少ない日は1人でコツコツと作りました。「特に今年はずしかった」とス

タッフ。12月8日の点灯式。さあ、スタート!! おっと、トラブール部が点かない・・・無事修正して「わあ、綺麗!!」と歓声が上がりました。期間中毎日行われる点灯式の申し込みは満杯で予約が取れないほどでした。このイルミネーションは2月11日まで冬の夜空を飾りました。さて次回の作品は何でしょうか。今から楽しみです。



手作りランプをつくろう

ワークショップ



2018年12月22日(土)
alaクルーズは、毎年恒例となっている可児市文化創造センターの冬のイルミネーション点灯式に併せ、『手作り

ランプをつくろう制作ワークショップ』を行い、この日の参加者は64組94名でした。まず、受付を済ませ、alaクルーズスタッフの簡単な説明を受け、さあ、スタート。紙粘土とLEDライトキットを使い思い通りのキャラクターを制作します。途中、スタッフにアドバイスを求めたり、指導を受けたりしながら完成させていきます。ランプ制作後、イルミネーション点灯式にて、願いを込めて点しました。点灯式がいっそう華やかになり歓喜の声が上がっていました。スタッフもやってよかったと心から思いました。



東京視察研修

12月15日、16日とアーククルーズより3名、東京視察研修に行きました。緊張感とワクワク感で一杯でしたが、東京に着くと冷たい風と寒さで、まさしく身の引き締まる思いになりました。初めに、すみだトリフォニーホールにてフロントスタッフの視察。身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉使いなどとても参考になりました。トリフォニーホールの名に込められた意味は、人・芸術・ホールの三者が互いに育み、刺激しあいながら独自の芸術を創造して



ていくという事だそうです。大ホールは最上の音を生み出すことを主目的に造られています。新日本フィルのクリスマスコンサート『第九』特別演奏会を観賞しましたが、ホールの名の意味とホールの造りに納得できました。バックステージツアーでは、トリフォニーホールの中央にある大きなパイプオルガンを間近に見学。普段見られないステージや楽屋なども興味深く、特に下手ロビーにアーティストの実力をより一層熟成させる空間として配置された、横尾忠則の“赤い滝”の絵が印象的でした。次に向かったのが新国立劇場、小ホールにて演劇公演を観賞。その後施設見学。小ホールは演出プランに合わせて自由に劇空間を創造できるオープンスペース劇場で、この時は舞台の四方を客席が囲むアリーナステージで、とても魅力的な空間でした。オペラ劇場は、オペラ、バレエ専用劇場のため舞台は高めで、すぐ下にはオーケストラピット。フル編成120人の演奏ができる広さがありました。歌手の肉声が理想的に響く設計で劇場そのものが楽器のような空間、客席の感動の拍手が劇場を包み込むような造りになっています。それは劇場の客席や天井などあらゆる所に工夫がされていました。舞台袖や裏では、狭い場所にそれは立派な舞台装置がありました。都会の中の劇場は場所が狭いのでどこも苦労されているようです。初日は午後からの東京入りでの盛り沢山の見学。興奮のまま一日を終えました。2日目朝、サントリーホールバックステージ見学。バリアフリーを中心に、色々と工夫がなされて改修工事が行われたそうです。座席の布もきれいに張り替えてあり、布の模様は葡萄という事でこだわりを感じさせます。最後に文学座アトリエに行きました。普段稽古場だという場所での公演、建物もどこか懐かしく、タイムスリップした様な雰囲気の中での公演。スタッフも親近感のある何ともほっこりとした印象でした。今回いくつも劇場を見学させて頂き、刺激もあり大変勉強になりました。これからのアークのフロントスタッフで生かしていきたいと思います。

(K)

東京視察研修に参加して

2018年12月15日（土）名古屋発10：55の新幹線に財団2名、クルーズより3名が乗り込み一路東京へ向かいました。最初の目的地は、すみだトリフォニーホールでの第九特別演奏会、新日本フィルによる演奏会です。会場は大ホールで1800名収容とのこと。演奏は第一楽章から始まり第二楽章、第三楽章と続き、そして第四楽章の歓喜の歌が合唱され凄まじい盛り上がりとなりました。『第九』を聴かないと一年が終わらない、という人もいるくらい凄まじい人気のある第九ですが日本でいつ頃から演奏されたかと思い少し調べてみると、1918年（大正7年）6月1日徳島県の鳴門市（当時は板東町）にあったドイツ兵の捕虜収容所で、楽器や編成などは不完全ながらも全曲が演奏されたようです。そして今年2018年はそれから100年目に当たるそうです。演奏会終了後はバックステージツアーとなり演奏の余韻が残る中案内して頂きました。舞台正面のパイプオルガンの裏側にある、ふいごや仕掛けを拝見しました。パイプオルガンの中に入っている管は小指程度の物から最大7メートル程の物が何本も入っているとのことでした。次に下手ロビーでは広さに驚き、さらに何か目に付く赤い色のパネルが上の壁に貼ってあり、数の多さに驚きました。これは画家の横尾忠則氏の作品で「滝」を描いたパネルが55枚と右側に15枚あり、55枚の方に赤色が使われているので凄まじく目に付きました。館内にはまだまだ沢山のアート作品があるようでしたが時間の関係で全部拝見することはできませんでした。すみだトリフォニーホールを後にしながら歩いていると何と、ビルとビルの間から東京スカイツリーが見えるではありませんか。記念に写真を撮り、新国立劇場に向かいました。その小劇場での公演『スカイライト』出演：蒼井優 葉山奨之 浅野雅博の三人による舞台前後に客席を置いた、センターステージの舞台でした。小劇場は、客席も含め劇場全体の床がすべて可動式になっており、演出プランに合わせて自由に劇空間を創造できるオープンスペースの劇場となっていて色んな舞台を楽しむことができます。『スカイライト』を観た後はオペラ劇場のバックステージツアーです。今回の演目は『くるみ割り人形』でした。舞台上にはセットされたお城や大小のクリスマスツリーなどが並べられ、ダンサーの衣装は通路の随所に所狭しと並べられていたのが印象的でした。

2日目は、日本橋を横目で見ながらサントリーホールへ出発です。日本橋は1603年に完成し、五街道の起点となった橋です。江戸時代は現三越や現東急百貨店が生まれ、一帯は日本の経済の中心地だったようです。サントリーホールの前広場に大きなクリスマスツリーが飾られていて、どこかで結婚式を挙げていた新婚さんが記念撮影をしていました。勿論我々も写真撮影を行いました。ホールの中を案内して頂き目に付いたのは女性用のトイレの数の多さでした。館内改修を行った時に増やしたそうで、アーラと比べようがない程の数でした。また、床は絨毯が敷き詰められていて、公演が始まるまでに靴の跡を消しておく作業を行うそうです。その作業中に私たちは歩いていたので申し訳なく思いました。大ホールは日本で初めてのヴィンヤード（ぶどう畑）形式となっており、座席は全2006席が段々畑状にステージを向いていてどこの席からもステージを正面に見ることができるようになっています。背もたれの高さは丁度頭が隠れる位高いのでステージがスッキリと見渡せます。またクロークは8列あっていかに早くお客様に対応できるかにかかっているとのことでした。ステージツアーを終えて表玄関に出ると、正午だったのでパイプオルゴールの鐘が鳴り始めました。普段は壁の中に隠れているので存在すら知りませんが、正午と開場時になると鳴るそうです。これを見られたということは大変ラッキーでした。視察最後は、信濃町にある文学座アトリエ公演『ジョー・エッグ』の鑑賞です。障がい児を持った家族の平凡な日常の背後に潜む苦痛と絶望、そしてそれぞれの葛藤を痛烈なユーモアを交えて鋭く描いた内容で出演者は6名でした。ここ文学座はアーラと地域拠点契約を結んでいて、学校等へ行ってアウトリーチ活動を行っています。見学を終えて外に出ると薄暗くなっていて風が冷たかったです。後はお土産を買って帰路につくだけですが今回の視察ではかなりの距離を歩いたようで1日目、2日目共に12000歩ほどでした。東京駅構内をあちこち歩き回り皆それぞれに土産物を手に結構なハードスケジュールでしたが老体に鞭打って何とか無事に帰ってきました。(T)



クロークの様子

東京研修

「東京研修に行かせていただいて本当によかった」研修を終えた感想です。見るものすべてが新鮮でとても勉強になりました。1日目、東京に着いてからまず訪れたのは、新日本フィルハーモニー交響楽団のフランチヤイズとなっている『すみだトリフォニーホール』です。バックヤードを見学させていただき印象に残ったことは、随所に『音』をテーマにしたアート作品が展示されていたことです。中でも、アーティストロビーの横尾忠則氏の壁画は、赤を基調とした滝が描かれ、出演者の士気を高めるのに一役かっているとのことでした。ここでは新日本フィルハーモニー交響楽団の『第九』を鑑賞しました。フロントスタッフの方たちのきびきびとした動き・笑顔・言葉使い・スマートな身のこなしなど大変勉強になりました。続いて、新国立劇場へと向かいました。オペラ劇場を見学し、小劇場にて演劇公演『スカイライト』を鑑賞しました。オペラ劇場は、オペラ・バレエ専用劇場として四面舞台となっており、大掛かりな舞台転換もできるそうです。舞台裏を見せていただきましたが、スケールの大きさに、ただただ驚くばかりでした。いつかぜひここで、オペラを観たい！そう強く感じました。2日目、サントリーホールにてバックヤードを見学させていただきました。日本初のヴィンヤード方式を採用したクラシック音楽の専用コンサートホールだけあって、細やかな心遣いに感動しました。（床に足跡がつかないように、最新の注意が払われていたりなど）また、クロークはお客様を待たせずにスムーズに引き渡しができるように、工夫がされていました。最後までお客様の気持ちを大切にする姿勢は心にとめておきたいと思いました。最後は、文学座アトリエ公演『ジョー・エッグ』を鑑賞しました。建物には趣があり、日本の演劇界に歴史を刻み続けている雰囲気にも圧倒されました。研修を通しての見聞が広まり、これからのクルーズへの気持ちが高まりました。貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです (U)



上田サントミュージーゼ視察研修

1月12日から1泊2日の行程で長野県の上田市交流文化芸術センター（サントミュージーゼ）視察をメインにした研修旅行にクルーズ13名・財団3名計16名で出掛けました。サントミュージーゼは2014年10月開館の新しい施設で劇場と美術館の複合施設になっています。鉄骨鉄筋コンクリート造り地上5階地下1階の建物で延床面積は17,620㎡です。今回は大ホール（1,530席）にて「のだめカンターピレの音楽会」を観賞し、また劇場施設やフロント業務の視察を行いました。全員が前、後半に分れて観賞した音楽会は特に前半のピアノ協奏曲が良かったとの意見が多かったです。施設としては2階と3階のバルコニー席が前に行くに従い1フロア分下って行くので分りづらいとの事でしたが、2階ホワイエから入れば2階席、3階から入れば3階席と考えればいかなと思えました。混雑時を考えた女子WCの広さ、壁に収納される場内監視用椅子等が良かったと思えました。フロントスタッフはレセプションと呼ばれ研修と面接を受けて選考されるという事でした。開場前のミーティングは時間を長くにとって細かなところまで指示されていました。公演中は所定の場所に静止されていましたが姿勢の良さが印象に残っています。ホテルで夕食を取った後、総勢10名で上田の夜の街を散策し、おいしい酒と料理を堪能しました。また駅の改札口で買ったリンゴは安くてとても美味しかったです。2日目は真田幸村の父昌幸が築城したという上田城に出掛け江戸時代からの建物である西櫓、真田石を使った石垣等を見て皆で写真を撮りました。小諸のマンズワインで昼食を取りワインの試飲をした後、各々が好きなワインのお土産を買っていました。その後、草間弥生の作品が展示してある松本市美術館を見学して可児に帰ってきました。とても楽しい旅になりました。(K)

上田サントミュージーゼ視察研修に参加させていただきました。財団の方を含め16名で行ってまいりました。信州ということで、雪と寒さを心配していましたが、天候に恵まれ楽しい2日間でした。まず、12日は一番の目的地『上田市交流文化芸術センター・サントミュージーゼ』です。サントミュージーゼとは愛称なんですが、全国より一般公募により決定しました。サントは、蚕都(さんと)上田のことで、ミュージーゼはミューズ(Muse～文化・芸術などを司る女神ムーサの英語名)からとられています。劇場と美術館の複合施設です。信州は木曾檜でも有名ということもあり、施設内は市有林から切り出された、カラマツやスギもふんだんに使用し木のぬくもりや重量感溢れる施設です。大小ホール・大中小スタジオ・多目的ホール・会議室・和室・ギャラリー等々充実していて、アールとはまた違った工夫がされていて素晴らしい施設です。中でも、大ホールで『のだめカンターピレの音楽会』を鑑賞させていただきました。ドラマで、野田恵を演じられた上野樹里さんもお見えになっていたそうです。エントランスの床も含めてすべてが木材で造られていて、とても温かさを感じ、音響反射板は天井吊り下げ形式で大変広くゆったりと防音効果に優れたホールでした。開場時に混雑を防ぐため、チケット内容によっては、もぎり場所を2箇所に分けるなど工夫がなされていました。トイレも行列ができて人も人がぶつからない設計です。そしていちばん素晴らしかったのは、レセプション(アールではフロントスタッフ)の方々です。ご指導していらっしゃるの、アールと同じ星乃もと子先生です。同じ先生なのに何か違っていました。…なぜ？それは多分レセプションの意識と姿勢ではないでしょうか？お客様の対応の仕方、立ち居振る舞い、エントランスでの立ち方ひとつ見ても自信に満ちた姿。全てに対して見習わなくてはいけないと思えました。13日は、歴史に残る真田家ゆかりの上田城址の見学、そしてマンズワイン小諸ワイナリーの見学(ワインおいしかったです)最後は、松本市出身の草間弥生さんの作品が置かれている松本美術館へ。草間さんの作品は色鮮やかで、個性豊かなダイナミックな作品でした。長い道中でしたが、皆さんと親睦も深められた視察研修となりました。(T)

編集後記

■ 平成13年増刊準備号発行から もう18年も経ってるんだ思うと時の流れを感じます。最初から携わって今49号。多くの皆さんに助けていただいて多くの方々に読んで頂いて、少しはクルーズのためになったのかな？って思います。 ^ 0 ^

2019年度通常総会（予定）

5月19日（日）

午前10時30分 受付

午前11時 開催

ワークショップルーム 洋室

ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414

<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>

Mail : ala-crews@kpac.or.jp

